

学 内 演 習		開講時期	必修・選択	時間
		9月 2月～3月	必修	60時間
学習のねらい				
<p>1. 脳卒中患者の事例を基にアセスメントを行い、具体的な看護計画を立案することができる。</p> <p>2. 専門職チームにおける役割を踏まえ、脳卒中リハビリテーション看護を実践できる。</p> <p>3. 認定看護師の役割を理解し、看護職を対象にした指導・相談対応を実施、評価できる。</p> <p>4. チームカンファレンスの方法を理解し、企画、実施、評価ができる。</p> <p>5. 在宅療養中の脳卒中患者の生活の実際を知り、急性期から生活期までのシームレスなケアの必要性について理解できる。</p> <p>6. 臨地実習での受け持ち患者の看護実践を客観的・論理的に考察し、ケースレポートにまとめることができる。</p> <p>7. チームカンファレンスやケーススタディを通して、自身のあり方と課題を明確にすることができる。</p>				
回	学 習 内 容			
1	1. 事例による看護過程の展開			
2～4	1) 看護過程とは			
5～8	2) 脳卒中急性期にある患者の事例			
	3) 重篤な脳卒中で意識障害・呼吸障害のある患者の事例（呼吸器からの離脱含む）			
	4) 脳卒中の回復期・維持期（生活期）にある患者の事例			
	訪問看護ステーションでの見学研修から脳卒中事例を報告する			
	排尿自立支援（エコーを用いた残尿測定・自己導尿に関する指導を含む）			
	<a href="#">ADL体験の実際</a>			
9～11	2. 看護職に対する指導			
	1) 問題の明確化			
	2) 企画・実施			
	3) 評価			
12～14	3. 看護職に対する相談対応			
	1) 問題の明確化			
	2) 企画・実施			
	3) 評価			
15～17	4. チームカンファレンスの企画・運営			
	1) チームカンファレンスの企画			
	①目的			
	②参加者の構成			
	③開催時期			
	2) チームカンファレンスの実際			
	3) 臨地実習で企画・参画したチームカンファレンスの評価			
18～25	5. ケーススタディ			
	臨地実習での看護の実際事例について、ケースレポートにまとめる。			

26～30	<p>6. プレゼンテーション</p> <p>チームカンファレンスやケーススタディを通し、脳卒中リハビリテーション看護における自己の課題分析を行い、今後の活動の場において脳卒中リハビリテーション看護にかかわる自身の活動のあり方を発表する。</p> <p>1) 研修開講時の自己のビジョン</p> <p>2) 修了に当たり自己分析と今後の活動</p> <p>3) プレゼンテーションの作成準備と発表技術</p>
評価方法	
<p>&lt;課題に対する取り組みと参加姿勢&gt;</p> <p>他者の意見をきき、建設的に自己の考えを表現する。</p> <p>自分が持ちうる資質や能力を使い、総合力を求められる。</p> <p>グループワークで多くの項目に取り組むので、その姿勢を評価する。</p> <p>不適切な行動は減点の対象である。</p> <p>提出物は指定期日までに提出すること。</p> <p>&lt;提出物&gt;</p> <p>①シミュレーションによる看護過程の展開 (10%)</p> <p>②見学研修記録・レポート(20%)</p> <p>③指導・相談における課題レポートまたは企画書 (15%)</p> <p>④チームカンファレンスに関する課題レポート (15%)</p> <p>⑤ケースレポート (20%)</p> <p>⑥プレゼンテーション(20%)</p>	
参考書	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 吉田道雄著,人間理解のグループ・ダイナミックス. ナカニシヤ出版,2001</li> <li>2. 吉田道雄著,実践的リーダーシップ・トレーニングー元気で安全な組織づくりのノウハウ. メジカルフレンド社,2011</li> <li>3. 森田実夏著,看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方ーテーマの決め方からレポートの作成・発表まで. 照林社,2009</li> <li>4. 松原茂樹,論文作成 ABC:うまいケースレポート作成のコツ. 東京医学社,2014</li> <li>5. 篠田道子著,チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方. 看護協会出版会,2015</li> <li>6. 岩間伸之著,対人援助のための相談面接技術ー逐語で学ぶ21の技法. 中央法規出版,2008</li> <li>7. 関永信子,ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開. ふくろう出版,2014</li> <li>8. 医療情報科学研究所編,病気が見える&lt;vol.7&gt; 脳・神経 メディックメディア (第1版).2011</li> <li>9. 神奈川県総合リハビリテーションセンター小山珠美監修,高次機能障害ナーシングガイド. 日創研出版 (改訂版).2005</li> <li>10. 宮野公樹著,学生・研究者のための使える! PowerPointスライドデザイン - 伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術. 化学同人, 2009.</li> </ol>	

臨地実習		開講時期	必修・選択	時間
		12月～ 1月	必修	180時間
学習のねらい				
<p>1. 脳卒中リハビリテーション看護分野において、熟練した看護技術や知識を活かした看護を実践できる。</p> <p>2. 他の看護職者及び医療チームとの間に円滑な人間関係を保ち、指導・相談対応を実践できる。</p> <p>3. 地域医療連携を推進することができる。</p>				
回	学習内容			
	<p>1. 実習課題及び内容</p> <p>1) 脳卒中患者の看護過程</p> <p>2) 専門技術</p> <p>①重篤化回避モニタリング技術</p> <p>②急性期の運動支援技術</p> <p>③急性期廃用症候群予防技術</p> <p>④生活の再構築支援技術</p> <p>3) 高次脳機能障害ケア</p> <p>4) 意識障害ケア</p> <p>5) 呼吸障害ケア</p> <p>6) 看護師および他職種へのコンサルテーション</p> <p>7) 患者・家族指導</p> <p>8) 退院調整、連携</p> <p>9) チームカンファレンスの企画・参画</p> <p>2. 実習において以下の状況の2～3事例を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>1) 脳卒中急性期</p> <p>2) 脳卒中による呼吸障害</p> <p>3) 脳卒中による運動機能障害</p> <p>4) 脳卒中による高次機能障害</p> <p>5) 在宅療養中の脳卒中患者（見学実習可）</p>			
評価方法				
<p>急性期実習、回復期実習を行い、各実習場での中間評価と最終評価から評価する。</p> <p>実習姿勢、記録物などにより実習評価表で総合的に評価する。</p> <p>最終的な評価は、提出された実習記録、取り組み姿勢により評価される。</p>				
参考書				
<p>1. 粟生田友子,看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術—リハビリテーション看護, メジカルフレンド社 .2016</p> <p>2. 篠田道子著,チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方. 看護協会出版会.2015</p> <p>3. 岩間伸之著,対人援助のための相談面接技術—逐語で学ぶ21の技法. 中央法規出版.2008</p>				